

式 辞

校門の桜の蕾も膨らみはじめ、降っている雨が温かさと一緒に、新たな命を育む春の息吹を感じさせてくれる今日の佳き日に、大阪府立桃谷高等学校 多部制単位制Ⅲ部 後期卒業式を挙行するにあたり、公私ご多用の中、大阪府教育庁 高等学校課 飯田指導主事並びに本校同窓会である桐友会 森山会長をはじめ、ご来賓のご臨席を賜りました上、多数の保護者やご家族の皆様のご列席を得ましたことは、卒業生はもとより本校教職員一同にとりましても、心からの慶びであります。高いところからではございますが、厚く御礼を申し上げます。

ただ今、所定の課程を修められ卒業証書を授与された三十四名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうでございます。こうしてめでたくこの日を迎えられたことに対して心からお祝い申し上げます。

また、これまで成長を見守ってこられた保護者やご家族の皆さまにおかれましても、本日の晴れ姿をご覧になって、さぞかしお喜びになっておられるものと拝察し、心からお慶び申し上げます。

私は本校に赴任して以来、全ての入学式で、皆さんに言葉の大切さを訴え、お互いに挨拶しようとして伝えてきました。毎日とはいきませんでした。下校時に自転車置き場に立ち、皆さんに「さよなら」と声をかけてきました。

最初のころは、わずかな人からしか挨拶が返ってきませんでした。中には、まるで私がそこに立っていないかのように、真っ直ぐ前を見つめたまま無言で通り過ぎて行く人、友人と話をしながら、通り過ぎていく人もいました。とてもがっかりしましたが、全ての生徒があいさつを返してくれるように、続けていきました。一緒に声かけをする先生方も増えていく中、1年目の終わりには、黙って横を素通りする生徒はいなくなりました。

今では、校舎内ですれ違った時でも、当たり前のように「こんにちは・さよなら」と笑顔で返事してくれます。下校時には、遠く離れたところからでも「さよなら」と大きな声をかけてくれる生徒もいます。

私は、この「こんにちは・さよなら」の言葉と一緒に見ることができる皆さんの素晴らしい笑顔が大好きでした。その笑顔を見るのも今日が最後だと思うととても寂しい思いがします。

さて、皆さん、入学した時のことを思い出してください。皆さんは様々な動機や学習歴をもって、本校に入学しました。年齢や入学までの経験、本校での在籍期間も違います。

小学校、中学校時代は「不登校」で学校に行くことが出来なかった人。他の高校に進んだものの、環境になじめず辞めてしまった人。戦争や厳しい生活環境により、学校に行く機会に恵まれなかった人。昨年秋に入学し、半年で卒業を手にした人。一方、少し遠回りして、5年間かかった人。

希望に胸を膨らませ学校生活に夢を抱いていた人はもちろんの事、中には本校に辿り着くまでに、自分自身の弱さや自らが置かれている厳しい環境の中、社会や学校に疑問や不満を持ち、大人や友人を信用することが出来ず、心を閉ざし、前を向くことができなかった人もいたのではないのでしょうか。

先日、皆さんが書いた卒業文集を読みました。

それぞれが、学校生活を振り返り、本校に入学した理由、修学旅行など学校生活を楽し

んだ事、勉強に苦勞した事、また、学校を辞めようかと思ひ悩んだ事、先生方への感謝の言葉などが丁寧に書き綴られていました。桃谷高校に来てよかったと、卒業にたどり着いた皆さん一人ひとりの喜びや心の声が聞こえてくるかのようでした。

先生方は、皆さん一人ひとりの気持ちや想いを受け止め、寄り添ってきました。きっと、皆さんは学校生活を送っていく中で、少しずつそのことを理解し、先生や友人を、大人を信用できるようになり、心を開き、前を向くことができるようになったのでしょうか。文集の中に「他とは違う高校ですが、桃谷高校が母校と胸を張って、いまなら言えます。」と言う言葉がありました。この言葉は、このように思ってくれる生徒がいることは、皆さんと一緒に歩んできた我々教職員にとって最高の褒め言葉だと思っています。ありがとう。

今、卒業する皆さんをみていると、少し古いですが「翼をください」という歌を思い出します。その歌詞は、

「いま私の願いごとが かなうならば 翼がほしい。」

「この背中に鳥のように 白い翼つけてください。」

「この大空に翼をひろげ 飛んで行きたいよ。」

「悲しみのない自由な空へ 翼はためかせ 行きたい。」

皆さんは、願っていた「卒業」という「翼」を手に入れました。

その「翼」の大きさや種類は違います。一度に遠くに飛んで行くことができる「翼」もあります。目的地まで、少し少し休憩しながらも、確実に飛んでいくことができる「翼」もあるでしょう。

その「翼」を使って、就職や進学、家事など、それぞれが卒業後に進む道である「大空」に大きく羽ばたいていくのです。これまでの自分が歩んできた「空」とは違った、自分が望む「悲しみのない自由な空」を目指して、羽ばたいていくのです。

しかし、飛んでいるうちに「翼」が折れたり、傷ついたりする事もあるでしょう。

また、今のその「翼」では行くことが出来ない、届かない「空」に飛んで行かなければならないなど、色んな困難が待ち構えているでしょう。

そんな時でも、決してあきらめず、飛び続けていくのです、前を向いて飛び続けてください。大切なことは、困難に直面した時、「できない理由」を探してあきらめるのではなく、真っ先に「できる方法」を考え、失敗を怖れず、何事にも果敢にチャレンジし行くことです。失敗から学ぶことはとても大切で、失敗するたびに人は成長していくのです。ひょっとしたら失敗して、空から落ちてしまうかもしれません。落ちる経験をしたからこそ、次は落ちない飛び方を身に付けることができるのです。

その気持ちを持ち続け、色んな空を飛んでいるうちに、色んな経験をしていくうちに、今の「翼」とは違った一層大きな、より力強い「翼」を手に入れることができるはずです。

苦しい時こそ、今そこにある色々な想いが詰まった卒業証書を見てください。そして、卒業という夢を叶えるために頑張れることのできた自分を誇りに思う今の気持ちを思い出してください。

その誇りを胸に、これから始まる人生を、素晴らしいものにするために、新たな夢や志しに向かって、その「翼」で大きく、大きく羽ばたいてください。

皆さんの今後のご活躍とご健康を心より祈念し、式辞といたします。

平成三十年三月八日

大阪府立桃谷高等学校
多部制単位制 III部
准校長 酒井 智